



スキー学習に思うこと



岩内西小学校長 佐古岡 香

新しい年を迎え、早いものでひと月経とうとしています。3学期が始まって2週間余り、子どもたちは学校の生活リズムを取り戻し、毎日元気よく登校しています。今シーズンは積雪が多く気温が低い日が続いています。通学路にも雪がうず高く積み、子どもの背丈を越す雪壁となっています。毎朝向かい風の中を、しっかりとした足取りで通学する姿を見る度に、岩内の子どもたちのたくましさを感じています。

先日お知らせいたしました、今年度の3年生以上のスキー学習を中止といたしました。町外スキー場の利用などあらゆる可能性を探りましたが、やむを得ず中止を決断しました。心待ちにしていた子どもたちの心を思うと胸が痛みます。今年度は子どもたちに残念な思いをさせてばかりで申し訳なく思っています。このような状況ですが、1、2年生は寒さをもものともせず学校の中庭でスキー学習を楽しんでいます。先日発行された2年生の学級通信における、スキー学習の様子を伝える文を紹介します。



(前略) 前回はいろいろな所で転んで「立てない」とヘルプが続出でした。しかし今回は転ぶ回数も減っていただけでなく、何とか自分で立とうとする頑張りが見られました。(中略) それだけではなく、転んで雪にはまってしまった子を助ける〇〇と〇〇と〇〇。転んでいる子に「頑張れ」と声をかける〇〇。子どもたちのあたたかさが伝わってきました。(後略)

スキーは「自分で頑張ろう」「友達を助けよう・励まそう」とする姿が顕著に表れる学習です。転んでも転んでも立ち上がって滑り続ける姿、板やストックを拾って友達に渡す姿、上手に滑った友達に自分のことのように喜んでストックを打ち鳴らす姿…、どの学校、どの学年でも目にしてきました。体育の授業ですから「技能」を身に付けたり高めたりすることは当然のことですが、「課題に立ち向かう」、「他者を思いやる」という「心」の面においても価値ある学習活動であることが、この学級通信から伝わってきます。子どもたちが未来を生きていく上で、「心」と「技能」が必要であることは言うまでもないでしょう。



小学校指導要領には、「自然とのかかわりの深い雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うことに留意すること」とあります。世界に誇るパウダースノーの後志、この岩内で、来シーズンこそは全学年でスキー学習を！と強く思う3学期の幕開けとなりました。

保護者、地域の皆様、短い3学期もどうぞよろしくお願いたします。

